

# 南 部

スローガン

**支え合い・つながろう・安全安心な南部 !!**

**実践目標①防災情報の共有と体制の強化**

**実践目標②みんなが集まる地域イベントの工夫**

**実践目標③ひとり暮らしに声をかけよう**



南部地区は歴史ある地縁の深い地域で、近年においては少子高齢化の影響から、中津市内の中でも高齢化率の高い地域でもあり、つながりづくりのためのサロン活動も展開されています。また、川や海が近いことからの防災への意識も高い地域です。

このような地域状況を理解しながら地域福祉活動を推進していくための「南部校区地域福祉ネットワーク協議会“ぼけっと”」もあり、地区内で活動する団体同士の情報共有の場や地域福祉情報紙の発行、研修会の実施などに取り組んでいます。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	3,522	3,306	2,911
世帯数	1,660	1,631	1,545
高齢化率	34.3%	38.6%	41.0%
一人暮らし高齢者	385	435	437
高齢者のみの世帯		934	877
0~18 歳人口	479	477	376

※各年ともに9月30日時点のもの（中津市の統計データより）

実践目標と設定理由・効果

実践目標①

**防災情報の共有と体制の強化**

「災害の訓練が不十分」「安全な避難場所がない」「地区によってばらつきがある」等の問題点が意見として多くでました。

南部地区は高齢化率も高く、各自の防災意識は高いものの、実際に災害が起きた際にどうすればいいのかという不安も大きいことが、防災の取り組みの必要性に結びつきました。

自治委員だけでなく防災士や消防団などが一緒に考える体制づくりや小地域の単位での情報共有などの具体的な実践を通じて、住民同士の意識の共有ができ、自主防災組織の機能が強化され、訓練の実施にもつながり、安心・安全につながります。

実践目標②

**みんなが集まる地域イベントの工夫**

「人の集まる場所に参加している人と参加していない人（できない人も含む）で個人差がある」「閉じこもりがちの人がいる」「交流があるのか無いのか情報がない」「近隣でもあいさつをしない」などの、日常生活のつながりの機会が不足しているという問題点が出ました。

高齢化が進んでいるからこそ、改めて住民同士のつながりを地域で協力した楽しい場を通じて作ることが大切です。

お互いに得意なこと発揮し合う場になることで、ひとりひとりの生きがいづくりにもつながります。

実践目標③

**ひとり暮らしに声をかけよう**

「75歳以上の男性の一人暮らしが孤立しがち」「居場所がなく孤立している人がいる」「サロンのことを知らない人がいる」「生きがいを持っている人、持っていない人の個人差がある」などの問題点から、孤立しがちな一人暮らしの人に、意識して声かけすることが必要です。孤立が続くと認知症になる可能性も高くなってしまいます。

いろいろな情報提供手段を考えたり、見守り声かけのための話し合いの場をつくることで、高齢になっても、何か困った時にもお互いに助け合える地域づくりにつながります。

**他にも出ましたこんな課題 !!**

成年後見について  
知ろう

障がいのある人・  
ひきこもりの人への  
理解

気軽に寄れる場を  
つくる

地域の安心安全  
(防犯)を進める

高齢者の生きがい  
づくりを進めよう

フードバンク  
の取り組み

情報紙「ぼけっ  
と」の充実



【南部】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
防災士（会）に対して支援をする					
小祝や金谷等、小地域の地域性を考えながら取り組みをする					
地域住民で話し合い、安全で歩いて行ける範囲の避難所を決める					
町単位や組単位で、自治委員や防災士と一緒に話し合いをする					
消防団員を含めた協力体制づくりを進める					
水害や火事などの時のために、各地区の活動状況の情報共有をする					
自由で気軽に集まれる場づくりをする（井戸端会議のような）					
気軽に集まれる場づくり（防災訓練も一つの方法）					
公民館まつり等今ある行事を大切に、魅力あるイベントする					
体操やグランドゴルフへの参加を進める					
高齢者が地域で活躍できる場や仕組みづくりを進める					
障がいのある人と一緒に参加するイベントを実施する（運動会等）					
お互い声をかけあい、一緒に参加できるよう誘い合う					
広報による情報伝達をする					
一人暮らしマップを作る					
近隣のちょっとした手伝いをひろげる					
一人暮らしの人を支えるための話し合いの場を作る					
隣接する校区で連携コミュニケーションをとる					
市の防災ラジオの活用など、情報発信の方法を工夫する					

子どもを中心にした地域づくりを考えよう

高齢男性の孤立を防ぐ「おじさん食堂」をつくろう

小地域単位の話し合いをしよう

福祉の広報  
つながる情報発信

ボランティアの情報発信をしよう

声を上げられる、相談できる場づくり

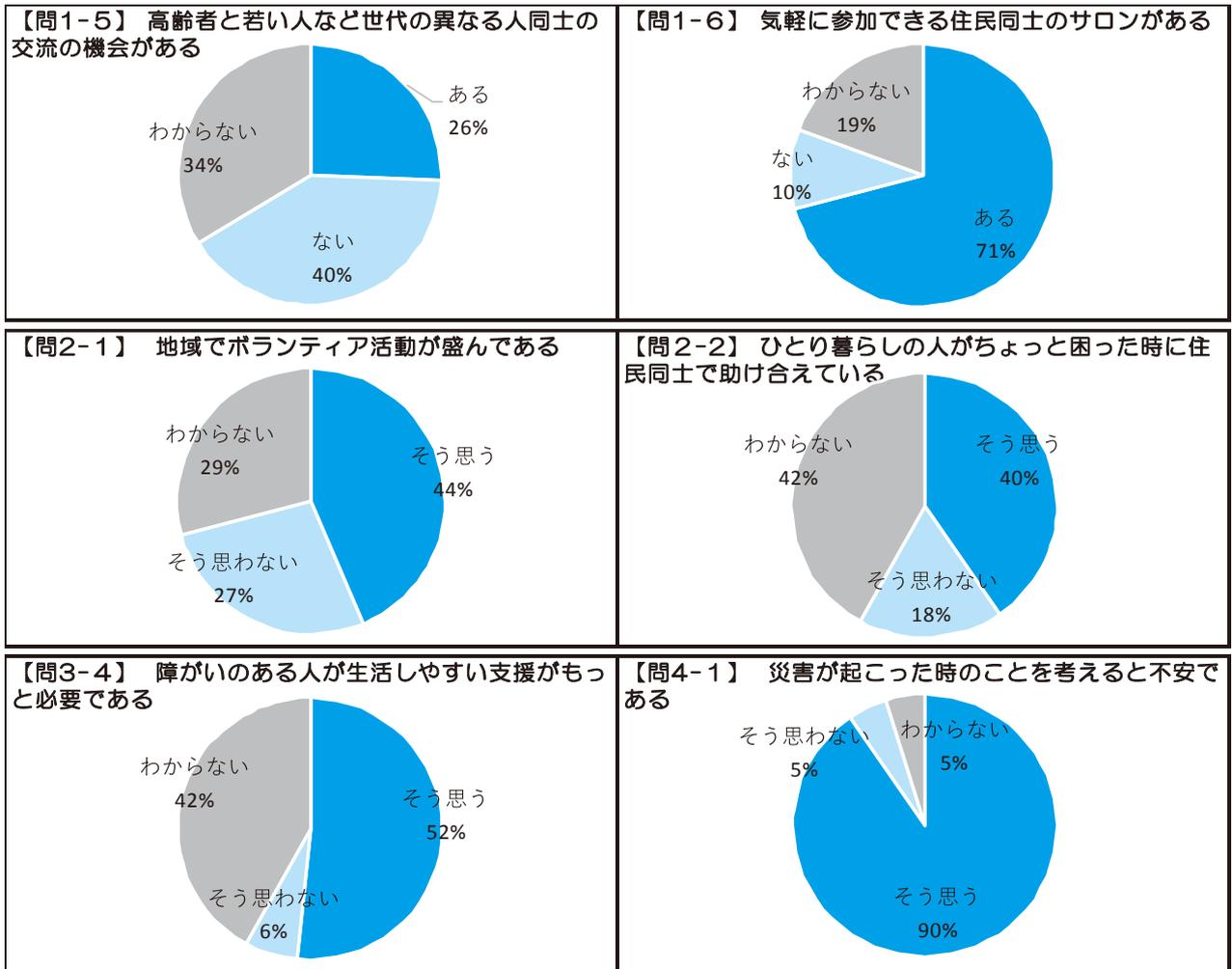


# 第4次の実践目標はこうして決まりました

## 南部地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	64人（男性25人/女性38人/無回答1人）
回答者年代	30代：3人、40代：7人、50代：13人、60～64歳：3人、 65～74歳：24人、75歳以上：13人

内容抜粋 無回答分は除いています



### アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・作業部会のように、学生や子ども世代にも地域の問題を一緒に話し合う機会を持てると良い
- ・ボランティアについて具体的な情報を流す
- ・一人暮らしの人がつながれるよう、LINEグループをつくる
- ・早い時期から相続など身内で考えておく意識啓発
- ・自治区や班単位で避難訓練を計画する
- ・地域と行政で空き家情報の共有をする
- ・パトロール活動には今後、若い人の力が必要
- ・買い物の手助け「買い物隊」の結成
- ・子ども達に地元の良さを伝えながら育てる

## 作業部会で出された、南部の地域福祉活動の良いところ

- 祇園や地域の祭り、イベントがあり、子ども同士の交流や多世代間交流の機会になっている
- サロン、週一体操、給食ボランティアなどがしっかり活動している
- 自治委員、民生委員が地域に気を配ったり、一人暮らし高齢者などに関わっている
- 道路の掃除等を地域で協力して行っている
- ゴミ出しのルールはだいたい守れていると思う
- 公民館まつりの場で防災の取り組みを実施
- 高齢者世帯に防災ラジオ配布した自治区あり
- PTA が中心になり小学校の門松づくりを実施
- 下校時に地域の方によるさりげない見守りがある
- 見回り、夜回りをしている



## 様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



## 南部の社会資源

(R3 年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

### お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです)

住民同士の交流・つながりの場	いきいきサロン (4)	サロンなんび (第 4 火曜・南部公民館) サロンはなみずき (第 4 金曜・南部まちなみ交流館) 小祝サロンひだまり (第 2 日曜・小祝老人憩いの家) 金谷鶴亀サロン (第 2 月曜・南部まちなみ交流館)
	週一体操教室 (4)	小祝元気体操クラブ (毎週金曜・小祝老人憩いの家) 南部健康体操クラブ (毎週金曜・南部公民館) かぼす体操くらぶ (毎週火曜・南部まちなみ交流館) 片端町倅会 (毎週水曜・片端町集会所)
ボランティア活動	給食ボランティア	城下町 (第 2 金曜・南部公民館) えびすの会 (第 3 金曜・南部まちなみ交流館) 金谷の会 (第 4 金曜・南部公民館) えみの会 (第 3 木曜・小祝老人憩いの家) さざ波会 (第 2 木曜・小祝老人憩いの家)
	その他	読み聞かせグループくすのき
住民型有償サービス	南部さくらサービス	
防災活動	自主防災組織、消防団、中津市防災士協議会南部部会	
防犯活動	防犯パトロール、少年警察ボランティア協議会、スクールガード	

### 関係機関が主催する交流の場・社会貢献活動

名称	主催	対象・内容
オレンジカフェむらかみ	地域包括支援センター 村上	認知症の方やその家族等が気軽に参加できる場
よりあ	南部地区生活支援センターディネーター	小祝地区などで、高齢者の閉じこもり予防として月 1 回開催

### 地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター (高齢者相談支援センター) 村上		
民生委員による心配ごと相談窓口	毎月第 1 月曜	13:30 ~ 15:30	南部公民館
生活支援コーディネーターによる相談窓口	毎週水曜	13:00 ~ 16:30	臼木さんち

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口 (P.153 参照) にお問い合わせ下さい